

(定例:テント泊訓練山行)

(報告 谷口)

山(山域・ルート) 北八ヶ岳 **東天狗岳** (2,640m)

西天狗岳 (2,646m) テント場 黒百合平

【日時】H20年7月20日(日)～ 7月21日(月)(1泊 2日)

【メンバー】(敬称略)

F(プランナー兼山行リーダー)・阿部・小川正(装備)・松田・内布・ET・谷口(記録報告)

蓑島(食事)・篠田(会計)・平野・奥津 (男性6名 女性5名 計11名)

【アルバムは会員専用 Page に掲載しています】

【行動記録】

(1日目)

6:10旧大宮公民館前―入間IC―八王子JC―談合坂SA(休憩)―南諏訪IC―9:30渋ノ湯
駐車場着、10:05渋ノ湯登山口―12:50黒百合平

(2日目)

5:42黒百合平―5:47中山峠―6:47東天狗岳7:00―7:17西天狗岳7:40―9:00黒
百合平10:00―11:45渋ノ湯登山口、13:00渋ノ湯駐車場―南諏訪IC―一宮御坂IC―
奥多摩湖駐車場(休憩)―狭山ファミレス(食事清算休憩)―19:45旧大宮公民館前

1日目 2時間4分 2日目 3時間54分

【装備・食料等】

共同装備: 5人用テント×1、3人用テント×2、トランシーバー、ツェルト×4、ランタン、ガ
スコンロ×4、コッヘル×2

個人装備: 銀マット、エアマット、シュラフ、シュラフカバー、サンダル、サブザック、ヘッドラン
プ、雨具、防寒着、コンパス、地図、新聞紙、ゴミ袋、日焼け止め、防虫スプレ
ー、医薬品、食器、箸、嗜好品他

個人食: 20日昼食、21日昼食、非常食

【山行報告】

2～3日前までは出発地及び山行先も曇りの予報で心配された天気も前日の梅雨明けを
受けて、好天を期待できる出発となった。出発が連休の中日ということもあり、高速道路の混
雑が懸念されたが、相模湖ICまでわずか7kmの渋滞で済み、予定より早く渋ノ湯の駐車場
に到着。しかし渋ノ湯の一般駐車場は既に満車。駐車券を購入してホテルの駐車場に入れ
させてもらう。この駐車場では大量のアブが飛び交う中、一部アブと格闘しながら共同装備
の分配など登山準備を進めた。

登山口は沢沿いに道路を登って5分ほどのところにある。登山口にはきちんとした小屋に

ポストも設置されており、ここで登山計画書を提出し、10:05に登山道に入る。今回の山行は一泊2日のテント泊山行ということで各メンバー重い装備を背負っていたため、30分歩いて10分休むというゆっくりしたペース配分で歩くことに。現地は快晴で登山口の渋ノ湯が標高1,800mを越えているとは思えぬ若干蒸し暑い中でのスタートとなったのだが、いざ登山道に入ると急登もほとんどなく、苔生す樹林帯の中を気持ちよく歩行することが出来た。足場は次第に岩がゴロゴロした中を歩くようになるが、浮き石は少なく、苔の上さえ踏まなければ特に滑り易いといった所もない。また、登山道は所々に木段や金網の橋が渡してあり、特に歩きづらいついということもない。また、道標もしっかり整備されているので道迷いも無いであろう。途中計4回の休憩を挟んで12:50にテント場のある黒百合平ヒュッテに到着。すぐにテントの設営にかかり、13:20全ての設営作業を完了した。

テント場は一部に多少の傾斜はあるものの、若干の小石が転がっている程度で至って平坦。しかも、コンパネが準備されており、その上にテントが設営できるので、寝ていて石が背中に当たって痛いということもまずないであろう。なかなか整備の行き届いたテント場である。予定よりもだいぶ早くテントの設営が完了してしまったので、その日のうちに天狗岳に登るなどの案も出されたが、結局テント場でそれぞれの余暇を過ごした。15:00から女性陣が準備してくれた夜食はソーセージとセロリと豆のトマトソース煮。これが山の上での食事とは思えぬ美味。山の上でこのようなおいしい食事にありつけ、食事担当に感謝感謝。夕方以降はガスがかかり、時折り降る小雨に翻弄されながらやはりそれぞれの時間を過ごし、恐らく20時過ぎに床に就いたものと思う。標高が2,400mを越えるところでの幕営であり、日が落ちると急激に冷え込むので、やはりそれに応じた装備は必要である。

2日目の朝は4時起床。昨晚のガスは夜露を残してすっかり消え去り、まさに真っ青な空が印象的な朝であった。朝食は白飯に卵スープの素を乗せお湯をかけるだけの至ってシンプルなものだったが、手軽さ以上にこれも旨い。非常食としても十分に機能する食事はおいしい上にいい勉強をさせていただいた。

テントや重装備はそのままテント場に残し、各々できる限りの軽い荷物を背負って予定より早く5:42にテント場を出発し、いよいよ中山峠経由で東天狗岳を目指す。中山峠まではテント場からおよそ5分。ここからは東の視界が開け、眼下に雲海が広がり、その遠くに秩父連峰が顔を覗かせているのが大変美しかった。だが、ここからの展望はまだ序の口。中山峠を過ぎると樹林帯を抜け森林限界へと突入していく。足場はというとだんだんと大きな岩がゴロゴロした中を歩くようになるので歩きづらくなっていくのだが、逆にどんどん広がる展望に楽しさが増し、メンバーの足取りはむしろ軽くなっていったような気さえする。途中一度の休憩を挟み、また東天狗岳山頂直前には左にミニ檜(勝手に命名)を見て、いよいよ6:47に天

狗岳を成す双耳峰の一峰である東天狗岳に到着した。頂上からは南側目の前に赤岳を代表とする八ヶ岳連峰、東は秩父連峰、南西には南アルプスから中央アルプス、さらに西から北に続く北アルプスまでありとあらゆる名山が展望でき、まさに絶景と呼ぶにふさわしい360度の大展望である。時間が早いにもかかわらず、山頂には既に数組の登山客が絶景を楽しんでいた。しばし展望を楽しみながら、7:00に東天狗岳を後にし、双耳峰のもう一峰西天狗岳を目指すのだが、ここからは急なガレ場を下ったあと、今度は急な登り返しを強いられる。歩行時間は短いので体力的にきついということはないのだが、足元は多少滑りやすく、場所によっては浮石が多く落石の危険もあるので注意は必要である。程なくして7:17に西天狗岳の頂上に到着。西天狗岳は標高2,646mと東天狗岳の2,640mより若干高く、こちらが天狗岳の最高峰ということになる。しかし、頂上は東天狗岳が岩峰であったのに対し、西天狗岳は木々の生息するおむすび山で山頂の雰囲気は全く異なる。同じ山でこうも風情の異なる山は珍しいのではないだろうか。ちなみに三角点(文字は風化して読めず)は西天狗岳の山頂にある。しばしまだ風情の異なる山頂を楽しんだメンバーは7:40西天狗岳から東天狗岳方面に戻るようになる。ただ、この山頂からは東天狗岳と逆の西方向に下れば、渋ノ湯方面にも下ることができ、テント場に残置してきた装備さえ無ければ、こちらのルートで下山するのも面白そうである。東天狗岳に戻る道の途中ではエスケープルートと思われる踏み跡を見つけ、それを辿ったのだが、途中で踏み跡が途切れており、やむなく途中から稜線までガレ場を直登した。このエスケープでは若干ショートカットできたのだろうが、ほとんど稼げず。稜線伝いに岩場を下りていくと、登りで使った中山峠を経由するルートと別のルートへの分岐に出る。ここで下りは中山峠を通らないもう一方のルートでテント場を目指すこととした。

こちらはゴーロを下っていくもので登った道とは全く趣が異なり、変化に富んでいて非常に面白いルートである。ただ、日光を遮るものが全く無く、日が高くなるにつれ強い直射日光にさらされることになるので、十分な紫外線対策品は必携である。この下りでも途中で1回の休憩を挟み、9:00テント場である黒百合平に帰着した。

テント場ではテントの回収と水分の補給などを済ませ、10:00にテント場を出発、昨日登ってきたルートを渋ノ湯に向かった。下りは登りほどの体力の消耗もないことから、歩行時間50分を目標に歩き、1回の休憩のみ、11:45渋ノ湯登山口に下山した。渋ノ湯ではお楽しみの入浴タイム。入湯料800円、残念ながら？男女別浴ではあったが、ここでメンバー全員2日間の山行に想いを馳せながらゆっくりと疲れを癒すことができた。ここの温泉には源泉27度の若干冷たい白濁した湯船もあり、疲労した体にしみるなかなか情緒たっぷりの温泉であった。

さて、ここからが問題。この日は3連休の末日。帰りは相当な渋滞が見込まれるため、帰

路の選択に知恵を絞ったのだが、結局来たルートそのまま戻ることになった。しかし、いざ高速に乗り、渋滞情報を目にするとなんと八王子まで3時間以上の大渋滞。しかも勝沼IC近辺では事故渋滞まで発生し、7km100分の表示！みんなの健脚なら歩いたほうが断然早い。考えた末、八王子までどうせ3時間以上かかるなら…ということで、一宮御坂ICで高速を降り、大菩薩ラインから奥多摩湖、青梅、入間へ抜けるという山道ドライブルートで大宮を目指すことに。結果は多分正解。高速を下りて途中奥多摩湖の駐車場での小休憩を挟み、およそ2時間50分で清算食事休憩を取った国道16号線沿いの狭山のファミレスに到着できた。途中山梨の道路端ではこれから本格シーズンを迎える桃の直売が軒を連ね、相当な誘惑に駆られたのは言うまでもない。結局帰路はほとんど渋滞に巻き込まれることも無く、19:45に無事旧大宮公民館前に到着し、またの再会を約してそれぞれの帰途へついた。

最後に運転手もさることながら、同乗者の皆さんも狭い車内でエコノミー症候群の危険と戦い、相当にお疲れになったことと思います。しかし、そんな中でも文句のひとつも言わず、むしろ場を和ませてくれた皆様のおかげで非常に楽しい山行となったことに感謝して、本報告を締めさせていただきます。

以上